

## ダチョウをもっと知ろう----ダチョウを飼育して思うこと----

### Ⅱ. 繁殖行動における疑問と不可解な珍事 (その1)

帯広畜産大学 名誉教授  
農学博士 三好俊三

今回はあまり科学的な根拠はありませんし、また、それを科学的に分析する方法もまだ、私には思いつきませんが、今日までダチョウを飼育してきて繁殖行動において考えさせられることと不可解な行動の一部を紹介します。

動植物を問わず、その“種を残す”あるいは“子孫を残す”ための繁殖(生殖)能力は、その生物が有する本来の性質です。いくら人間によって改良された動物(家畜・家禽)や栽培している作物もこの性質をもっているはずで、動物では、それぞれの種で繁殖に当たり、特有の行動が見られます。すなわち、繁殖のときに見られる特異な行動を繁殖行動(性行動)と言われ、各個体が持つ本来の行動、いわゆる本能と言ってもいいと思います。ダチョウも雌雄ともにどの個体も繁殖能力があり、雌雄でそれぞれ異なった特異な繁殖行動をします。基本的に、雄は求愛行動をし、相手を見つけ交尾し射精します。雌はもう少し複雑で、求愛行動の後、雄を受け入れ産卵します。さらに、ある個数の卵を産むと卵を温める行動「抱卵」をし、ヒナを孵化させ、次いでヒナを一定期間育てます(育雛)。雌のこの一連した行動を就巢性と言います。野生の鳥類は、行動が異なりますが、この就巢性を持っていますし、抱卵や子育てをペアで行う場合が多いようです。抱卵と育雛を放棄した鳥は、他の鳥にこの作業を任せています(托卵)。また、野生の鳥には繁殖季節があり、ある季節になると雌雄ともに発情し求愛行動をします。雌は一定の数の卵を産み、その卵を温め、孵化させ子育てをします。もちろん、卵を産む前に雄を受け入れ、交尾をしています。交尾があつて排卵(産卵)することを刺激排卵と言います。一般的に、人によって改良されてくる(家禽化)に伴い、繁殖季節が長くなり、就巢性の後半の行動(抱卵と育雛)が消失し、刺激排卵ではなくなるようです。

さて、私達が飼っているまだ改良の歴史が浅いダチョウには、繁殖季節があるのでしょうか？また、刺激排卵なのでしょうか？どなたか知っている方がおられましたら教えて下さい。ダチョウの改良を飛躍的に進展させるには、これらのことを知ることが必要となります。すなわち、人工授精を可能にすることに繋がると思っています。

繁殖用のダチョウを飼っておられる方は、受精卵を得るため、雄1羽雌2羽のトリオで飼育していると思います。産卵するとすぐにその卵を取り上げますので、年間を通して産卵するようになったとも思われます。しかし、本当でしょうか。私のいる北海道帯広のように季節が非常にはっきりしているところでは、ちょっと事情が違ふようです。だんだん寒さが増し、日照時間が非常に短くなってくる11月頃になると雌雄ともに求愛行動を示す個体がいなくなります。雄の脛や嘴の赤味も失せます。もちろん産卵はなくなります。寒

さに耐えるための維持エネルギーが必要なために繁殖が止まるのかもしれませんが、しかし、冬至を過ぎ、日が長くなってくる2月になると繁殖行動を示す個体が多くなってきますし、産卵してきます。帯広では、2月が一番寒い時期です。給与している飼料は11月と変わっていません。多くの鳥が持っているように日照時間が長くなれば産卵する性質(長日性)が出てきたのでしょうか。改良が非常に進んだニワトリもこの性質をもっていますので、人工照明で1日の明るい時間を調整して1年を通して産卵させています。このように考えてみますとダチョウにも繁殖季節があり、私達が飼っている家禽化されたものは、その季節の期間が長くなっていると言えるのではないのでしょうか。

次に、刺激排卵の件ですが、繁殖用に使用しているダチョウは、飼育羽数にかかわらず受精卵を得るため雄がその群の中にいますので交尾をしている可能性が高く、刺激排卵かどうか判別できません。採卵用のニワトリのように雌ダチョウだけを群飼して確かめてみたいものです。あるとき、私の所のある雌が雄に蹴られて怪我をしました。治療のため、しばらく別のパドックに1羽で飼養しました。産卵はもちろん止りました。怪我也完治しましたが、雄と同居させないでそのままにしておきましたところ、また、産卵が始まりました。また、ある雌が産んだ卵を10個ほど孵卵しましたが、すべて未受精卵でしたので、そのペアの行動を長時間観察してみますと、一度も交尾、射精に至っていませんでした。しかし、二つの事例からでは、私達が飼養している家禽化されたダチョウは、刺激排卵かどうかを結論づけられません。

前述しましたが、これからダチョウの改良が望まれるなかで、飛躍的に改良を進展させるには、ダチョウの血統管理と人工授精の方法の確立が必要となります。そのためにも繁殖行動における疑問点をできるだけ解明していかなければなりません。(次号につづく)

\*\*\*\*\*



### Timespan: For Breeding and Living

A male ostrich reaches sexual maturity at about 3 years and a female at about 2 years. When a male ostrich is in season (ready to mate) his legs and neck become a bright pink and so does his beak (which looks rather like lipstick has been applied) They can breed up to an amazing 42 years of age and could produce more than 4000 offspring in their lifetime! Ostriches have been known to live for up to 80 years of age so think twice before you buy one for a present!

オーストリッチが繁殖能力を持つのは、雄は3歳、雌は2歳位からである。繁殖期になると雄の脚や首は紅くなり、嘴もまるで口紅をつけたよう。驚くべきことに42歳まで繁殖可能、生産は4000を超える。オーストリッチは80歳まで生存することが知られている。プレゼントするなら、熟慮の上でね。